

## 令和5年4月から必要です

マスクのフィットテストを実施しましょう

以前、本誌令和4年7月号に掲載した「金属アーク溶接等作業」に関しての記事でご紹介した呼吸用保護具のフィットテストですが、屋内での溶接作業者に対して令和5年4月から実施となっております。ついに来月に迫りました。今一度注意点等含めてご説明しますのでご確認くださいと思います。

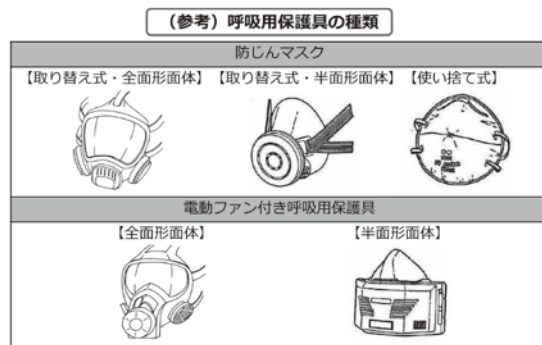
◆呼吸用保護具のフィットテスト◆  
フィットテストは、有害物のばく露によって労働者に健康被害が起きないように、適切な呼吸用保護具が選択され、適切

に装着されているか確認する試験です。

方法については日本産業規格（JIS）T 8150・2021で定められています。また、テストの実施者は「精度等を確保する為に十分な知識及び経験を有する者が実施するべき」とされており『マスクフィットテスト実施者養成研修』等を受けた方が望ましいです。令和6年4月からは有機溶剤や特定化学物質などさまざまな作業場でフィットテストが必要となる場合があります。※  
※令和6年4月からフィットテストが必要になる場合

作業環境測定の評価結果が第3管理区分となり、作業環境管理の専門家が改善困難と判断した場合や改善措置を行った場合も第3管理区分となった場合は呼吸用保護具によるばく露防止対策が義務付けられ、面体を有する呼吸用保護具の場合は年1回のフィットテストも必要になります。

この場合、保護具の選



厚生労働省発行「金属アーク溶接等作業について健康障害防止措置が義務付けられます」パンフレットより

定は個人サンプリング測定等で濃度測定を行い、その結果に応じて行います。それら以外にも保護具着用管理責任者を選任し、管理・指導することも義務となり、作業環境測定の結果が悪い作業場は管理が非常に大変になります。

### ◆実際にフィットテストを行って◆

弊社では現在までに約200名の測定を行いました。すべて溶接作業従事者の測定で、マスクは防じんマスクです。

多くの作業者のみならず、私自身も今までフィットテストを行っていないので、マスクの選択基準はDS2などの規格品であるかという点が主であったと思います。

改めてマスクのサイズや形、装着方法を見てみるとさまざまなものがあり、実

際フィットテストを行うと小顔でマスクのサイズが合っていない方、顔にマスクの形が合っておらず、現在使用しているマスクでは合格できない方もいます。その場合、他のマスクに変更するなど検討が必要です。

使い捨てマスクのテストでは、マスクに顔との接触面に折り返しがあり、接触面積が大きいものほど合格率が高いです。

また、顔面との接触部がゴムでできているフィルター交換式マスクでは、マスクの清掃をしておらず、排気弁が変形していたり、排気弁に粉じんが付着して機能せずに不合格となるケースもあります。

みなさまフィットテストを行う前に今一度、鏡や同僚の方などに見ていただいで、マスクのサイズや形が合っているか確認、マスクのメンテナンスをしてテストを行ってください。

(株アイエンス)